

## 埼玉県議会「騒動」の裏に潜む

### 自民党のリベラル化

#### ウイングを広げる ニセ保守を曝け！

埼玉県の自民党県議団が議員提案で成立させようとした「虐待禁止条例改正案」は世論の激しい反発を受け、委員会を通過した後に提案側が改正案自体を「撤回」するという恥ずべき結果になりました。ただ、大切なのは、これが単なる埼玉のローカル問題ではないということ。埼玉県議会の動きを辿っていくと、ウイングを広げて左派マスコミに取り入ろうとする保守・自民党のリベラル化が背景にあります。そうした動きが「暴走」して世論の反発を受けたというのが今回の実態ではないかと思えます。

#### 自民県議団に君臨する 田村琢実県議

今回の改正案を主導したのは、県議団長で元

議長田村琢実県議（51）です。田村県議は、県議会定数93人の圧倒的多数を占める57人の自民県議団のトップとして君臨し、本来の保守の立場とは相容れない施策を次々に打ち出して来ました。保守の仮面を被った

自民党左派とも言うべき人物です。県連の青年局幹部を務めた縁で、党本部青年局のリベラル系の国会議員らと人脈を築き、国会に近づくために政調会長時代の稲田朋美衆院議員とも関係を深めました。現在は、稲田議員の後援会組織「ともみ組」の埼玉の会長も務めています。

#### 高市衆院議員らを マスコミに売った「前科」

田村県議は昨年7月、自ら主導し、国の法律に先駆けて「性的指向又は性自認を理由とする不当な差別的取扱いを是らならない」などとする

## 保守のウイング拡大はマスコミ迎合

安倍元首相は生前、「自民党のリベラル化」を懸念されていたと言われます。稲田衆院議員はたびたび「保守としてウイングを広げていく」旨の発言をしています。実態は左派マスコミに持ち上げられて悦に入っている党内リベラルに過ぎません。

田村県議も次期参院選への出馬を目論んでおり、今回の暴走による挫折を受け、マスコミの評価を挽回するため、さらに左へとウイングを広げてくる恐れがあります。

#### 金と人事を握られて黙る 自民党県議たち

埼玉県議会では田村県議の専横がなぜ許されるのか不思議ですが、同県議会にはかつて県議1期といわゆるボス（故人）がおり、その存在に取り入ることので力を蓄えて来たと言われます。今や、県議団の金と県議会の人事を自由に操れるまでになっています。今回、文春オンラインで暴露された女性問題に限らず、さまざまな金銭疑惑も指摘されています。

今回の騒動に到った田村県議の言動は県議団長辞任に値します。しかし、一部の志のある方を除き、多くの県議は感情を抑え込んでいるのか、何の追求も反論もしていません。実に情けない現状です。

## 「全国初」という危険なワナ

ネット上では左翼活動家が、田村県議が日本会議の会員であると流しています。確かに会員だった時期はありますが、既に令和3年6月に退会しており、現在は何の関係もありません。

これまで「全国初」を謳い文句にした施策で左派マスコミにもはやされて来た田村県議ですが、こうした傾向は、安倍元首相なき今、LGBT問題などで広がっています。そうした中、前号でお知らせしたように、東京・台東区の松村智成区議はマスコミの言葉狩りに屈せず、信念を貫こうと奮闘しています。

憲法改正、皇位継承問題などで正念場を迎えている今、その核となる志ある地方議会の同志の方々と情報を密に交換していく必要があるでしょう。

タワラフ記事  
(14日タワラ)

文春オンライン  
(10月12日配信)

